

水都大阪パートナーズの取組み ～3年間の活動とこれから～

一般社団法人 水都大阪パートナーズ
代表理事 高梨日出夫

1. 水都大阪パートナーズの概要

2013年3月に公募で選ばれて活動開始した水都大阪パートナーズですが、事業期間4年間として余すところ活動期間は1年です。この3年間の成果・課題等多々ありますが、最終年次に向けて、設立経過から活動範囲、活動内容等をご紹介します。

(1) 設立の経緯：水と光のまちづくり推進会議設立と それ以前の水都大阪の歩み

水都大阪事業の基本方針を一体的に審議する機関として、府・市・経済界トップ、有識者（計6名）で構成する「水と光のまちづくり推進会議」が発足し、2013年5月7日第1回会議が開催されました。この日から、水と光の魅力で世界の都市間競争に打ち勝ち「水と光の首都大阪」の実現に向けて、民間と行政のパートナーシップの活動がスタートしました。

なお、この推進体制が活動するまでの主な歩みは下記の通りです。

- 2001年12月 内閣官房都市再生本部都市再生プロジェクト認定
- 2007年5月 「水都大阪2009」実行委員会設立
- 2009年8～10月 「水都大阪2009」を開催、水都大阪の改善をアピール
- 2010年4月 水都大阪推進委員会設立
- 2012年12月 大阪都市魅力創造戦略策定（*計画期間H24～H27）

（*）重点施策として「水と光のまちづくり推進体制の構築、大阪アーツカウンシルの設置、大阪観光局の設立」

2013年5月7日 第1回水と光のまちづくり推進会議の開催

なお、下記は第1回 水と光のまちづくり推進会議での水都大阪パートナーズ提案パネルです。

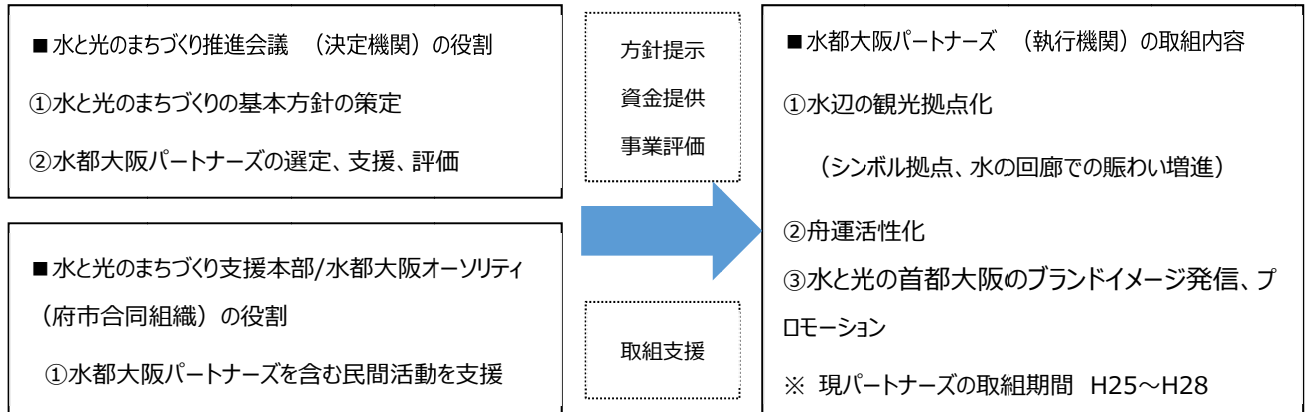


水都大阪2009



(2) 一般社団法人 水都大阪パートナーズの設立、役割、体制等

水と光のまちづくり推進会議（決定機関）のもと、民主導の都市魅力創造・まちづくりの推進を担う「水都大阪パートナーズ（執行機関）」を組織として、2013年2月に募集がされ、その結果、提案事業者3社の中から、我々水都大阪パートナーズが最優秀として選ばれました。一般社団法人水都大阪パートナーズ（設立/2013年4月26日）の活動を支援するため、府市合同組織「水と光のまちづくり支援本部（水都大阪オーソリティ）」が同時に設置されました。なお、基本の仕組みは下記の通りです。



(3) 主な活動エリア：大阪の歴史的な資産であり特徴的な「水の回廊」

我々水都大阪パートナーズの主な活動エリアは、大阪市を中心部を流れる全長約12kmの「水の回廊（土佐堀、堂島川、東横堀川、道頓堀、木津川等）」です。府市合同組織である水と光のまちづくり支援本部（水都大阪オーソリティ）と共に、この水辺の公共空間の利活用の促進、水辺拠点の創出やプロモーション等に取り組んでいます。

また、東横堀川、道頓堀には2か所の水門が設置されており、防災、水質浄化機能等を果たしつつ、水辺の空間がより身近に感じる事ができていることも特徴の一つです。

この水の回廊は、江戸時代は浪花八百八橋と称された河川・運河等の都市構造を今に留め、水都大阪の特性であり資産です。この世界でも稀な都心を囲む水の回廊を活かし、観光クルーズ船や遊歩道を利用して歴史や文化を楽しむ街歩き等、水辺の魅力を感じ楽しむことができます。



平成時代の水の回廊



江戸時代の水の回廊（浪花八百八橋）

2015年は大坂夏の陣から400年、道頓堀開削400年等、大阪のまちづくりがスタートした記念となる年、シンボルイヤーです。水と光のまちづくり推進会議（構成：府市+経済界）は、この大阪の資産でもある「水の回廊」を舞台に、水都の魅力内外に広く伝えるべく「水都大阪2015」を開催しました。

3つのプログラム（Inochi フェスタ、ミナ！キタ！フェスティバル水都大阪2015、大阪大発見）を
 コアイベントとして、様々な民間イベントが連携企画された結果、約205万人もの府民、市民の方々が
 水都大阪を楽しむことができました。

（4）水辺の魅力向上が進んだこの10年

以前はブルーテントが点在し、市街地から背を向けた都市の裏側であった
 水の回廊ですが、2000年前後から水辺の環境が改善されました。川の両岸に
 は遊歩道、夜間照明やみどりと調和した空間づくりも進みました。河川空間
 を利活用した地先利用（常設北浜テラス等）や新たなシンボル空間も創出さ
 れました。ライトアップも年々進み、東京にもない美しい水都の夜間景観が
 創出されてきました。



難波橋周辺のライトアップ

【主な水辺の景観形成に向けた整備内容】

例年川開きの会場となる八軒家浜等の水辺拠点を始めとして、この数年では下記のような新たな水辺
 拠点等も誕生してきました。

- ①とんぼりリバーウォーク完成【H24/2012】
- ②西天満若松浜に中之島にぎわいの森づくりの一環として推進してきた水辺拠点が完成【H25/2013】
- ③堂島川右岸（銚流橋～天神橋）の遊歩道と水辺緑化が完成【H25、H26】
- ④中之島GATEに新たな水辺拠点が完成【H26/2014】 ※ 暫定OPEN
- ⑤本町橋船着場完成【H27/2015】
- ⑥Taisho リバー・ビレッジが新たな水辺拠点として完成【H27/2015】 ※ 暫定OPEN
- ⑦木津川（立売堀）の遊歩空間整備中【H27/2015 完成予定】



八軒家浜とSUP



とんぼりリバーウォーク



中之島賑わいの森



本町BASE

2. 水辺の賑わい創出と水都大阪パートナーズの「2015年から2016年への 取組み等」

【都市環境として四季折々を楽しむ水都大阪スタイルの定着等】

- ①春：3月末の川開きをスタートとして、「常設川床北浜テラスの川床開
 き」、さくらの開花時期の3月末からの大川桜クルーズ（毎年約2万人）、
 5月～6月の中之島公園でのバラ開花とイベントに平日1万人、土日2
 万人の方々が楽しみに来られる。
- ②夏～秋：7月には水都の涼を楽しみ、約5万個の「いのり星®」を放流
 する「平成OSAKA天の川伝説（約4～5万人）」、千数回を超える「天
 神祭」等。この期間、我々水都大阪パートナーズとしては、中之島公



常設川床 北浜テラス



天神祭

園での水辺に面したオープンテラス、グリーンマーケット等を企画開催、夕涼みを楽しんでもらう。9月～10月には水都大阪フェスでの食・アート・ヨガ等、市民プログラム等を開催、ナイトクルーズも共同企画する等水都大阪の涼を楽しむプログラムを提供してきました。

③冬：11月末からは冬の風物詩「OSAKA 光のルネッサンス」等賑わいのプログラムにつないでいます。



市役所前グリーンマーケット

【水の回廊での新たなビジネスモデルや市民プログラムの構築】

このように、水の回廊を中心とした水辺空間活性化事業等、水都大阪の特色を活かした水辺の魅力向上や賑わい創出を進めています。なお、集客イベントの実施にあたっては、民間企業や市民からのプログラムの公募を通して、新たなビジネスモデルや市民プログラムの構築につなげるとともに、舟運事業者とも連携してナイトクルーズ等の共同企画や船着場での係留実験等、水辺の賑わいの創出を図っています。

(参考：水都のイメージの一つ)

嘗ての大阪では夕涼み時には、大川の水辺に多くの船を繰りだし、食や舟遊びを楽しんだ時代がある。右図は江戸時代の天満橋～天神橋の風景



【3年間の成果と課題と共に28年度の取り組みについて】

第6回水と光のまちづくり推進会議にて、下記概要を報告、平成28年度にむけての基本方針の了承を得ました。活動スタートから3年間の成果と課題と共に、最終年次となる平成28年度の取組方針（社会実験から定着へ）について簡単に紹介します。

(1) 水辺の拠点づくり～中之島の東西のシンボル拠点：中之島公園・周辺及び、中之島GATE ～

1) 中之島公園エリア「水辺のまち遊び等、賑わい増進の取り組み等」

- ・平成27年度は中之島公園の公共空間の継続的な占用により、オープンテラスやグリーンマーケットの長期開催を実現し、その結果として収益面や日常の賑わい面で一定の目処が立ち、公共空間活用のノウハウを蓄積できました。
- ・9月～10月には水都大阪フェスを開催、近畿地方整備局主催の「ミズベリング世界会議」や、「おおさかカンヴァス」「中之島のつと」とも連携を行いました。併せて、ナイトクルーズも実施しました。約6600人の方に利用していただき船の利用機会の創出を通じて、舟運の活性化にも取り組みました。

大項目	中項目	※ プログラム内容（場所:市役所南側+水辺劇場前+公園等）	期 間
水辺のまち あそび (6/20～ 11/15) 来場者実績 22万人	水の都の夕涼み (68千人)	①オープンテラス（市役所南側+水辺劇場前） ②中之島夕市（グリーンマーケット、ワークショップ:市役所南側）	・6/20～11/15 ・7/17～10/17
	水都大阪 フェス2015(公園等) (142千人)	①クラブピアピクニック(6日間)、あかマルシェ(2日間)、リバー サイドヨガ(2日間)、ミズベリング世界会議(3日間)等、連携事業 ②くうそうの島(3日間)、ラバーダック誘致(25日間)等、自主事業	・9/18～10/12 ・同上
	オータムフェスタ (公園) (3千人)	・アウトドアヨガ祭り2015(2日間)	・10/9～10/11



土佐堀沿いのオープンテラス



水都大阪フェスとメガアート



水都大阪フェスと芝生広場



ナイトクルーズ

(くうそうのしま)

・平成 28 年度は公園の継続的な活用による賑わいの定常化を進めながら、公園エリア周辺の事業者の参画も得て、中之島公園の賑わいの総合プロデュースと検証を進めていきます。土佐堀沿いに涼を楽しむ様々な形のオープンテラス等ができ、ナイトクルーズも昨年同様、運航できればという思いです。

2) 中之島GATE「中之島漁港、中之島みなと食堂を核とした賑わい創出等と共に中之島GATEエリアでの海の駅、川の駅化の推進支援等」

・平成 27 年度の中之島漁港・みなと食堂の実績は、来場者・売上げとも、当初設定の目標を上回る盛況ぶりです。なお、集客は目標 12 万人／年に対して、実績が 14.4 万人／9 ヶ月 (H27.4～12 実績)。また、売上げは目標 2.4 億円／年にたいして、実績が 2.2 億円／9 ヶ月 (H27.4～12 実績) です。

・大阪の水辺の定番商品として、積極的なプロモーションを進めた結果、フランスの旅行ガイドブック等に掲載され、また、多数の国内外のメディアに取上げられ、中之島GATEの魅力を発信することができました。



中之島漁港・みなと食堂と掲載されたガイドブック等



中之島GATE/イベントスペースと海フェス開催等



・平成 28 年度の取り組みについては、漁港・みなと食堂の運営事業者であるフィッシャーマンズマーケット社との協議を進め、事業者の追加投資の条件整備が整い、中之島漁港・みなと食堂のリニュー

アルオープンを予定しています。引き続き、中之島GATEのさらなる魅力創造と、恒久利用に向けた検証の継続等が課題です。

【中之島の東西のシンボル拠点の形成：中之島公園・周辺及び、中之島GATE】	
3年間の取組結果と課題	平成28年度取組み（社会実験から定着へ）
【成果と課題】 1. 公共空間での利活用の社会実験と定着 （2大拠点の賑わいと民間投資&回収モデルの実践） ①中之島公園：オープンテラス&グリーンマーケット等 ②中之島GATE：インフラ投資&事業者投資 2. 国内外からの評価：全国からの視察受入、国内外に水都発信ができた 【課題】 ①民間事業投資のための利用期間の確保 ②事業者拡充 ③海の駅申請（福島区側）とエリアとして賑わいの周辺連携	1. 中之島公園（市役所前＋中之島公園等） ①公共空間の継続的活用（水辺のまちあそび/フェス等の発展的継続と賑わいの定常化等） ②賑わいの総合プロデュースと検証 ③水陸をつなぐ舟運と連動した賑わいづくり 2. 中之島GATEエリア ①中之島漁港・中之島みなと食堂のリニューアルオープン ②中之島GATE(福島区側) 海の駅申請と連動した地域全体の賑わい創出等 ③インナーベイマーケットリゾートに向けた将来像の検証 （2020年以降）

3) 水の回廊における公共空間の手続きの簡便化や民間投資の促進等

・平成27年度は、昨年5月に開設した本町橋BASEや大阪城港周辺において、都市・地域再生等利用区域指定、所謂準則特区を目標とした拠点の利活用や検証を行いました。その他の水の回廊の地域においても、地先利用（川床等）の可能性の検証を進め、本町橋付近において、川床の社会実験を実施しました。

・平成28年度も、これらの取り組みを進め、水の回廊の公共空間の利用促進が進めばと考えます。



本町橋BASE オープニング記念事業(大阪城・ご座船)

オープニング記念事業(地元小学校の参加)

水の回廊と地先利用の促進

(2) 舟運の活性化「水の回廊をめぐるクルーズや観光商品の創出等、国内外から観光客が訪れる環境整備等

・平成27年度は、舟運活性化を進めるにあたり、舟運事業者など関係機関の参画を得て、水辺観光商品造成協議会を設置し、課題や取組みを整理した船運活性化のロードマップの作成等を進めてきました。

・小型船等を活用して、水辺のイベント開催に併せたナイトクルーズや拠点を結ぶクルーズ企画等、舟運の活性化に取り組みました。

・平成28年度は、水辺拠点の一つにおいて多言語対応のチケット販売カウンター設置の検討等のインバウンドへの対応に加えて、小型船の一時係留を進め、小型船の本格的な活用が可能なターミナルの創出を目指します。



新規定期観光船就航（大阪城御座船）



レストランクルーズ運航（ふれあいの岸辺）



係留社会実験に伴う小型船定期運航



ナイトクルーズ運航（水都舞臺）



係留社会実験（大阪城ハーバー）



ナイトクルーズ運航（中之島公園）

区分	旅客定員	船数
大型船	100～	4
中型船	13～99	25(2)
小型船	～12	21(2)

(*) 大阪市内・稼働観光船一覧（ ）内はH27増船数。

- ・船が行き交う風景づくりとして、中規模の船（旅客定員13名～99名）を活用したインバウンド向けクルーズの企画に注力すると共に、小型船の運航事業者の多くは、単独でクルーズ企画を継続的に実施することが難しい場合も多い等の理由から、関係機関と連携した共同運航体制の構築と運用を目指します。府民・市民と共に、観光客も参加できる船を活用した水上パレードの企画・実施予定。多くの方が楽しんでいただだけ、大阪の魅力発信につながるプロモーションと連動したイベントにしたいと考えます。
- ・舟運の活性化についてはプロモーションも含め、これまであまり取り組めていなかった水の回廊、東西軸を船が行き交う風景づくりに取り組んで行く予定です。

【水の回廊（その他、拠点17拠点）と舟運活性化】	
3年間の成果と課題	平成28年度取組み
【成果】 1. 水都の風景づくりと様々な舟運コンテンツの増加（実験と検証：ナイト&ディナークルーズ、小型船、水上スポーツ等） 2. 係留システム始動（6拠点）：大阪城・GATE サウス & ノース・BANKS 等 【課題】 1. 船のある風景づくりと、定着させる仕組み・企画等 ・ナイトクルーズ等企画や拠点同士の連携強化等 ・ユーザー目線の利便性の向上や魅力伝達等 2. 係留実験の更なる検証 ・一時係留の弾力的運用や船着き場のターミナル化	【舟運の活性化】 1. 舟運活性化のための社会実験の実施 ・ターミナル化社会実験 ・多言語対応の舟運案内（案内板）の作成 等 2. 船が行き交う風景づくり ・インバウンドの受皿としての中型船の活用 ・船が行き交う風景づくりとしての小型船の活用 ・水上イベントの開催 【水の回廊の活性化】 1. 地先利用支援(大阪城港周辺、本町橋 BASE) 等

(3) プロモーション：質の追求（水都大阪のブランディング化）＋量の対応（インバウンドの水辺への取り込み）

- ・平成27年度は水都のブランディング化とインバウンドの水辺への取込みを目標に取り組んできました。
- ・フェイスブックなどによる情報発信に加え、画像で水都のイメージをより発



多言語とQRトランスレーター

信できる「Instagramやユーチューブ」を活用等、ブランディング化に取り組みました。



旅行ガイド「Petit Fête」の掲載

- ・また、水都の夜の魅力発信につながるよう、大阪魅力満喫キャンペーンを活用したナイトクルーズの企画実施。その際、インバウンド向けに5言語で見どころを発信する事も実施しました。なお、利用客のうち、インバウンドが3割を占めるなど、今後のインバウンドの水辺への取り込みに向け、成果を残すことができました。
- ・さらには、海外での情報発信にも努めた結果、フランス語圏旅行雑誌や中国、タイの雑誌において水都大阪の情報を掲載することができました。
- ・水都大阪2015の連携企画として、国が主催のミズベリング世界会議を誘致。世界の水辺都市のキーマンが集るシンポジウムの開催（パリ、サンアントニオ、バンコク、大阪等）、約1080名が参加を頂き、盛況でした。世界河川プロモーション会議も同時に開催し、水都の魅力を広く発信しました。
- ・平成28年度は、水都大阪のイメージアップ、情報発信の拡大・効率化を進めるため、魅力発信に資するコンテンツ作り、素材収集を行い、ポスターなどの媒体を使いながら定常的な情報発信を進めます。
- ・また、コンテンツや素材については大阪観光局とも共有し、Instagram等を活用しながら、水都のイメージ発信を進めます。

【水都大阪の魅力発信、プロモーション：質の追求（ブランディング化）+量の対応（インバウンドの水辺への取り込み）】	
3年間の成果と課題	平成28年度取組み
<p>【成果】</p> <p>1. 国内外メディア掲載</p> <p>①新しい大阪の魅力として国内外ガイドブックで水都大阪の情報を発信（フランス語圏：旅行ガイド「Petit Fête」(22年前創刊)に中之島公園等の初掲載。また、中国：「在日本」創刊号（2月創刊）等、水の回廊中心の水都大阪に関する特集の掲載等）</p> <p>2. WEB・SNSの有効活用</p> <p>①国内外での口コミの伝播。スマホに対応した情報発信</p> <p>②インバウンド等への魅力発信のため新たにInstagram活用等</p> <p>3. 年間プログラム認知</p> <p>①水辺の定常イベントとしてメディア等の認知が向上</p> <p>4. 水都大阪2015連携企画</p> <p>①ミズベリング世界会議の開催（延べ1080人参加）</p> <p>②世界河川プロモーション会議の開催</p> <p>【課題】</p> <p>1. 水都大阪のブランディングの強化</p> <p>①水都のイメージ発信（夜景・船の行き交う風景等）</p> <p>②夜景の魅力：ナイトクルーズの造成、SNSキャンペーン実施</p> <p>2. インバウンドの取り込みのための官民プロモーション強化</p>	<p>【情報のイメージ化、発信の拡大・効率化】</p> <p>1. 水都大阪イメージ構築のためのPRコンテンツの作成</p> <p>①定常的に使用できるコンテンツの作成とポスター・チラシ等活用</p> <p>②世界河川プロモーション会議招聘メディア等、国内外メディアに対する水都大阪のプロモーションの継続</p> <p>2. 観光局との連携強化</p> <p>①コンテンツ、素材の共有化</p> <p>②水都のイメージ構築のためのInstagram（画像）による連携</p> <p>3. ミズベリングとの連携</p> <p>①ミズベリング大阪会議、ミズベリング世界会議に続く連携事業の実施</p> <div data-bbox="917 1729 1305 1989" data-label="Image"> </div> <p>平成27年度 ミズベリング世界会議</p>

(4) 総括として、水都大阪パートナーズ 3年間（平成25～27年度）の取り組み結果と平成28年度の取り組み方針

当初掲げた目標やこれまでの3年間の取り組みを簡単に図にまとめました。当初目標の達成は難しいところではありますが、一定成果も出つつある事業もあります。最終となる来年度は、下記の一覧のような、これまでの成果や課題を踏まえ、次の水都の取り組みに繋げていけるよう、さらなる魅力づくりに邁進します。

【水都大阪の推進体制（推進会議+パートナーズ+オーソリティ）】	
<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全国初の官民推進体制の構築 (経済界、府市都市魅力戦略の一体推進) 2. 国内外からの評価（全国の行政機関、民間事業者等視察など、水都大阪を発信） 3. 公共空間活用の事業モデル（社会実験からの展開） 	<p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民間投資の内容や規模に応じた事業期間の確保及び、呼び込む手法の開発 2. 関係機関との連携や役割分担等 ： 観光局等とプロモーションの連携強化等 3. パートナーズとオーソリティの役割を踏まえた連携強化

水都大阪パートナーズ 3年間(平成25～27年度)の取り組み結果と平成28年度の取り組み方針

第6回水と光のまちづくり推進会議資料 平成28年2月9日 資料1

方針	2016年度末に目指す姿	3年間の取組結果と課題	H28年度 取組方針(社会実験から定着へ)
<p>ミッション① ： 世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」の創出</p> <p>将来像 ： 中之島公園、中之島GATEにこれまでにないシンボリックな拠点をづくり、国内外から注目される</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●【中之島公園】賑わいが定着し、府民・市民のさらなる憩いの場となると共に、インバウンドでも注目を浴びる ●【中之島GATE】フィッシャー・マンズマーケット及び周辺エリアでの船のある風景を実現する ●水都大阪パートナーズのコーディネートを通じて、企業・市民の水辺活用が進むとともに、長期的な取り組みを具体化する 	<p>中之島の東西のシンボル拠点の形成：中之島公園・回廊及び、中之島GATE</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■公共空間活用の長期事業の社会実験と定着（2大拠点賑わいと民間投資・回収モデルの実証） -中之島回廊：オープテラス&グリーンマーケット(事業者&市民共創) -中之島GATE：インフラ投資&事業者投資(資本&利用料回収) ■国内外からの評価 -全国からの視察受入、国内外に水都発信 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■民間事業投資のための利用期間の確保 ■事業者成長と共に船の回廊・回廊(仮設区画)賑わいの創出を促す <p>水の回廊(その他、拠点17拠点)と舟運活性化</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■水都の風景づくりと、様々な舟運イベントの開催(体験&観光) (サイエンスデューククルーズ、小笠原、水上スポーツ等) ■優良システム船種(6船種)：大阪湾-GATEサテライト&ノース-BANKS <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■船のある風景づくりと、定着させる仕組み・企画等 -ナイトクルーズ等企画や船内回廊の連携強化等 -ユーザー目線の利便性の向上や魅力伝達等 ■優良実験の更なる検証 -一時係留の弾力的な運用や船着き場のターミナル化 <p>水都大阪の魅力発信等、プロモーション</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■国内外メディア掲載 -「新入」大阪の魅力として国内外がIP化で水都大阪の情報を発信 ■WEB-SNSの有効活用 -国内外での口コミの伝播、スマホに対応した情報発信 ■年間プログラム認知 -水辺の定常イベントとしてメディア等の認知が向上 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■水都大阪のブランディングの強化 -水都のイメージ発信(夜間・船の行き交い風景等) ■インバウンドの取り込みのための官民プロモーション強化(観光局他) <p>水都大阪の推進体制(推進会議+パートナーズ+オーソリティ)</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■全国初の官民推進体制の構築(経済界、府市都市魅力戦略の一体推進) ■国内外からの評価(全国の行政機関、民間事業者等視察など、水都大阪を発信) ■公共空間活用の事業モデル(社会実験からの展開) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■民間投資の内容や規模に応じた事業期間の確保 及び、呼び込む手法の開発 ■関係機関との連携や役割分担等：観光局等とプロモーションの連携強化 ■パートナーズとオーソリティの役割を踏まえた連携の強化 	<p>H28年度 取組方針(社会実験から定着へ)</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ■【中之島公園(市役所前+中之島公園等)】公共空間の継続的活用(水辺のまちあそび(フェス含む)等の発着の継続と賑わいの定着化等) ■賑わいの総合プロデュースと検証 ■水都を学ぶ舟運と連動した賑わいづくり ■【中之島GATE(含む、中之島回廊、食堂、その他)】中之島回廊・中之島みなと食堂のニューオープン(2016春予定) ■中之島GATE(福島区側)海の駅申請と連携した、地域全体の賑わい創出等 ■インナーマーケットリフトに株式会社開発の検証(2020年度) <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ■【舟運の活性化】舟運活性化のための社会実験の実施 -ターミナル化社会実験 -多言語対応の舟運案内(案内板)の作成 等 ■船が行き交う風景づくり -インバウンドの受入としての中型船の活用 -船が行き交う風景づくりとしての小型船の活用 -水上イベントの開催 <p>【水の回廊の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地先利用支援(大阪城周辺、本町橋BASE) 等 <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ■【情報のイメージ化、発信の拡大・効率化】水都大阪イメージ構築のためのPRコンテンツの作成 -定期的・定期的なコンテンツの作成やTwitter等活用 -世界河川アソシエーション会連絡メディア等、国内外メディアに対する水都大阪のプロモーションの継続 ■観光局との連携強化 -コンテンツ、素材の共有化 -水都のイメージ発信のSNS(Instagram(画像)による連携) ■ミズパブリックとの連携 -「ミズパブリック」大阪会議、ミズパブリック世界会議に続く連携事業の実施
<p>ミッション② ： 国内外から観光客が訪れる「水と光のテーマパークの実現」</p> <p>将来像 ： 水の回廊をめぐる拠点が多数できていると共に、水の回廊を船で巡るクルーズ商品・観光商品化により、国内外から観光客が訪れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●川に向かい水辺を生かしたまちができる ●定期船や観光クルーズ等の船が川を行き交っている ●美しい水辺景観が広がり水辺を囲んでいると共に、ナイトクルーズ等も定着 ●情報発信、プロモーション等、水都大阪全体の魅力が向上し、国内外に水都大阪が知られる 	<p>水都大阪の推進体制(推進会議+パートナーズ+オーソリティ)</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■全国初の官民推進体制の構築(経済界、府市都市魅力戦略の一体推進) ■国内外からの評価(全国の行政機関、民間事業者等視察など、水都大阪を発信) ■公共空間活用の事業モデル(社会実験からの展開) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■民間投資の内容や規模に応じた事業期間の確保 及び、呼び込む手法の開発 ■関係機関との連携や役割分担等：観光局等とプロモーションの連携強化 ■パートナーズとオーソリティの役割を踏まえた連携の強化 	<p>水都大阪の推進体制(推進会議+パートナーズ+オーソリティ)</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■全国初の官民推進体制の構築(経済界、府市都市魅力戦略の一体推進) ■国内外からの評価(全国の行政機関、民間事業者等視察など、水都大阪を発信) ■公共空間活用の事業モデル(社会実験からの展開) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■民間投資の内容や規模に応じた事業期間の確保 及び、呼び込む手法の開発 ■関係機関との連携や役割分担等：観光局等とプロモーションの連携強化 ■パートナーズとオーソリティの役割を踏まえた連携の強化

(第6回 水と光のまちづくり推進会議資料より転載)

■筆者略歴

横浜国立大修士課程において横浜市の港湾エリアや運河などの水辺再生等をテーマに研究。卒業後、旧)市浦都市開発建築コンサルタンツ/住宅・都市計画事務所に勤務、タウンプランナーとしてけいはんな学研都市等や横浜市みなとみらい21・ポートサイド地区等、ウォーターフロント等の企画開発等にかかわる。1980年代初頭、アラブ首長国連邦ドバイ市都市計画局にて、シニアタウンプランナーとして勤務。帰国後、1990年代は住友金属工業(株)地域開発事業部にてユニバーサルスタジオジャパンの誘致・整備や、北九州市小倉駅北口開発等の事務局として関与、2000年に退社。その後、都市プランナーとして、2000年代は大阪駅北ヤードの国際アイデア・コンペ入選等を契機に、大梅田グランドデザイン策定等に関わり、大阪駅前の阪神デパート、阪急ビルの建替え等、大阪駅前南地区等、市内中心部の都市再生緊急整備エリアでの新たな制度や枠組みづくりに参加。2013年4月以降、一般社団法人水都大阪パートナーズ代表理事及び事務局長。

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所
〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号
グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7F
TEL 06-6359-1322/FAX 06-6359-1329